

2018年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	国際教育ボランティアにおける「深い学び」を促進する教育モデルの開発
研究所名	国際教育研究所(所長 言語文化教育研究センター 中山誠一 教授)
設置開始	2018.4.1
設置終了	202 .3.31

■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

本年度は、研究計画に沿って以下の通り研究を行った。

平成30年7月：本研究所研究員である、ワデル・ランゲージ・アカデミー降矢恵美子教諭および金城翔太教諭を本学に招いてイマージョン教育に関する講演会開催した。

平成30年10月：日本教育心理学会総会にて経過報告を行った。

平成30年11月：本学常磐祭にて経過報告を行った。

平成31年3月：米国ノースカロライナ州 Wake Forest University で行われた the Southeastern Association of Teachers of Japanese (SEATJ) 学会にて、降矢恵美子研究員とともに経過報告を行った。

■現在までの達成度

本研究では、以下に示す3つの達成目標を掲げている。本年度は、これらのうち、主に1. 事前研修プログラムの開発<知識の獲得>および2. 漢字学習を目的とした読み物の開発に焦点を当てて研究を行った。

1. 事前研修プログラムの開発<知識の獲得>

具体的には、昨年7月に現地研究員を本学に招聘し、イマージョン教育における日本語教育に関する講演会を行った。その結果、研修プログラムへの参加希望者が急増し、本年2月には6名（本来定員は4名）のアカデミック・ボランティアを送ることができた。

2. 漢字学習を目的とした読み物の開発

本年度は、読み物開発の土台となる教材の提示方法について研究を行った。具体的には、漢字の読みの教え方についてふりがなを使用する方法と、音声を使用する方法について実証的に比較を行った。その結果、初級・中級レベルの学習者では、これら2つの方法のいずれを用いても学習効果に差がないこと、上級レベルの学習者になるとふりがなを使用するよりも音声を聞いた方が、学習効果が期待できることがわかった。

■次年度以降の研究（見込み）

来年度については、主に本研究における2つ目の目標である漢字学習を目的とした読み物の開発に着手する。具体的には、専門的知識がない学生でも現地で活用できる、漢字学習を目的とした読み聞かせ教材を作成する。理科や歴史をテーマにした、小学校1年生から中学校2年生を対象とする読み物教材を50種類開発する。

■研究活動における成果

(1) 研究成果（雑誌、学会発表、図書等）

中山誠一. (2018). 「漢字の読み方の学習に VA シャドーイング法は効果を発揮するのか 小中学生を対象にして」. 日本教育心理学会第 60 回総会（於 慶応義塾大学日吉キャンパス 独立館 2018 年 9 月 16 日）

Nakayama, T., & Furuya, E. (2019, February). *The Effectiveness of the VA Shadowing Method*. Paper presented at The 34th Annual Conference of the Southeastern Association of Teachers of Japanese (SEATJ) at Wake Forest University in Winston-Salem, NC, on Saturday, March 2, 2019.

(2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

2018 年 7 月 全学を対象とした日本語教育講演会を実施